

---

# 哀れで歪んだ恋物語

ラモン

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

哀れで歪んだ恋物語

### 【Nコード】

N5705Q

### 【作者名】

ラモン

### 【あらすじ】

さてさて、語りますのは今はすでに無い東の国の物語。  
愛し方を知らない女の、哀れで歪んだ恋物語。

フェリアナ フェリアナ 哀れな女。

愛され方を知らなくて 愛し方を知らなくて。

フェリアナ フェリアナ 哀れな女。

歪んだ愛をその身に宿し 愛する男に憎まれた。

フェリアナ フェリアナ 哀れな女。

燃えるお城のてっぺんで 復讐される時を待つ。



燃える、燃える、城が燃える。

炎が辺りを赤く照らす謁見の間で、私は玉座に座りながら辺りを覆う炎を眺めていた。

配下の能無し共は既に全員逃げたか死んだかしただろう。

真っ赤な真っ赤なこの場には、私以外には誰も居ない。

近衛騎士が真っ先に逃げ出すなんて、騎士の誓いが聞いて呆れるわね。

「……まあ、私を守りたい奴なんて、居るわけないか」

玉座の肘掛けに肘を置いて、クツクツと笑う。

騎士どもは、どういつもこいつも家族を人質に忠誠を誓わせていたようなもの。

反乱軍が国を占領し、人質だった家族が開放されたと知れば、私につき従う理由なんて無いのだ。わざわざ死を覚悟してまでこの私を――歴史上最悪の暴君、黒薔薇の君と蔑まれた私を守る訳もないだろう。

むしろ憎んで当然だ。下手したら、反乱軍と一緒に乗り込んでくるかも知れない。

それはそれで、まあ構わないけれど。

「それでも、あいつ等になんて、殺されてやらないけどね」

呟いて、近くにあったワインを口に含む。

炎の熱でぬるくなってしまったワインは、とてもじゃないけど飲めたものじゃない。

それでも、カラカラに乾いた私の喉は水分を求めてワインを通す。

「ふはっ」

グラスになみなみと入れてあったワインを一気に飲み干して、息を吐く。

そうしていると、謁見の間に通じる通路の向こうから、ガシャガ

シャと鎧の足音がした。

こちらに向かっていているのだろうその足音は、1つだけ。  
そう……1つだけ。

ああ、ああ！　ようやく来てくれた。

私は踊りだしそうになるのを必死に堪えて、その人が来るのを待つ。  
つ。

足音が1つだけなら、これはきつとあの人のモノだ。  
この国1番の騎士だったけど、私に復讐する為に、騎士団を辞めて反乱軍に行った人。

期待混じりに謁見の間の燃え落ちそうになっている扉を見る。

すると、ついに足音はその扉の前までやってきて、ボロボロになった扉を壊す勢いで蹴り開けた。

木で出来た扉が開き、その向こうから入ってきたのは――

「フェリアナ！」

――ああ、ああ！　ようやく来てくれた。

私の待ち人、私の愛しい愛しい騎士ヨハン！！

燃える炎とは真逆の青い鎧。

私が贈ったその鎧を着て、私の前に来てくれた！

ああ、ああ！　愛しい愛しい私の君！

「フェリアナッ！！」

ヨハンは私の名前を呼びながら、その顔を憤怒に染めて私の元へとやってくる。

当然だ。あの人の父を、母を、私は彼の目の前で殺して見せたのだから。

この人が私を“憎むように”私が自分の意志でそうしたのだから。

「フェリアナアッ！！！！」

血に染まった剣を掲げ、彼が私の居る玉座へと近づいてくる。

その憎悪に染まった顔を見るだけで、ゾクゾクと体が火照る。射殺されそうに鋭い彼の視線に晒されているだけで、思わず達してしまいそうになる。

私が恍惚としている間に、目の前に来たヨハンの剣が突き出された。

けれど、突き刺さったのは私ではなく、私の顔の横。私の生を終わらせる為に突き出された筈の血染めの剣は、私が座するには少し大きすぎる玉座の背に刺さり、貫いている。

「……？」

どうしたのかしら？ この国1番の騎士であるヨハンが、狙いを外す訳もないのだけ。

「フェリアナ、何故だ……」

不思議そうに首を傾げてヨハンの顔を見れば、彼は何故だか泣き  
そうな顔をしていた。

どうしたの、ヨハン。そんなに悲しそうな顔をして？  
貴方の両親を殺した敵は、憎くて憎くて仕方ないでしょう？  
なら、もっと私を憎んでいる顔をしなくちゃ駄目じゃない。

「何故君が、僕の両親を……何故君が、この国を……」

ポロポロと、ヨハンが涙を零す。

ああ、ああ！ 駄目よヨハン、そんな顔をしちゃ駄目駄目！  
貴方は私を憎まなきゃ！ 誰よりも、何よりも憎まなきゃ！！

「昔の君は、誰よりも優しくかったじゃないか。なのに、何でこんな  
……っ！」

そうじゃなきゃ、私がこの国を滅ぼした意味が無いじゃないの。

「何かあったのか？ なあ、フェリアナ……」

そう言つてヨハンは継るような顔をする。

なるほどね。貴方は私が昔の……まだまだ生娘だった頃のままだと思つていたいね。

でも、駄目よヨハン。

私が貴方に見て欲しいのは、“今の”私なんだから。

「何も無いわよ、ヨハン」

だから、思い知らせてあげる。

“今の”私の、変わってしまった、変わりすぎてしまったこの愛を。

もう戻れない、醜く歪んで、どうしようもない程に歪みきつたこの愛を。

「全て私の意志。私が望み、私がそうしたくてやったこと」

「フェリ、アナ……」

彼の頬に手を当てて、囁う。

彼が私を存分に憎めるように、その心の奥底に私への憎悪が永遠に燻り続けるように。

「何故と聞いたわね、ヨハン？ いいわ、答えてあげる」



そして刻みつけてあげる。

貴方の心の奥底に、この私を……フェリアナ||ブリュツセル||エーデハイドの事を。

どうしようもない憎しみと共に。永久に、永遠に。

「貴方の両親を殺したのも、この国をこんなにしたのも」

そうして貴方は、生涯私を愛し（憎み）続けるようになるのよ。

「面白そうだったから、ただそれだけよ」

「……っ！ 貴様アアアアアアアアツツツ！！！！」

私の答えに、ヨハンの顔がまた憎悪に染まる。

そして彼は玉座に突き刺していた剣を抜き、今度こそ私の胸へと狙いを定め……。

「両親の……この国の敵、フェリアナ||ブリュッセル||エーデハイド！ 覚悟っ！！」

真っ直ぐにその剣を突き出して、私の胸を貫いた。

「か……は、あ……っ」

ああ、ああ！ 待ち望んだ時が来た！

これでヨハンの心は一生私の物！ 私の心は一生ヨハンの物！

嬉しいわ！ とても嬉しいわヨハン！！

やっと貴方の物になった！ ずっとずっと、幼い頃から愛していた貴方の物に！

ずっとずっと、私を憎み続け（愛し続け）て頂戴！

貴方は優しい人だから、私の事を忘れられないでしょう！？

貴方は一生、私に縛られてくれるでしょう！？

ああ、ああ！ 愛しい愛しい私のヨハン！

誇っていいのよヨハン！

貴方の心を手に入れる為に、私はこの国もこの身もこの命も、それこそ全てを犠牲にしたのだから！

これが、これこそが私の愛！ 歪んでしまった私が、貴方だけに向ける愛！！

ああ、ああ！ ヨハン！

私だけの愛しい人！ 貴方の剣に貫かれ、私は貴方の物になる！

歓喜に包まれながら、遂に私の意識が薄れていく。

霞んだ視界で最後に見えた、愛しいヨハンの顔は憎悪で醜く歪んでいて、その目には私しか映っていなかった。それが嬉しくて、私は微笑んで目を閉じる。

——ああ、ああ。

ようやく、ようやく……貴方は“ワタシノモノ”になったのだ。



フェリアナ フェリアナ 哀れな女。  
歪んだ愛でその身を焦がし ヨハンの全てを憎悪に染めて 彼の  
心を手に入れた。

フェリアナ フェリアナ 哀れな女。  
愛する男に憎まれて 血染めの剣ツルギが胸を刺す。

フェリアナ フェリアナ 哀れな女。  
白いドレスを血に染めて 愛する男に殺された。

今は滅んだ東の国の 哀れで歪んだ恋物語。



## （後書き）

なんぞこれー。

どうも、ラモンです。

これは、とある作者さんの企画に応募しようと思ってサラッと書いたけど、クオリティ低くて微妙な感じなのでボツになった作品です。でも、何か消しちゃうのもアレなんで、そのまま短編として投稿してみました。

悲恋&復讐がテーマだったんですが……どうよ？（笑）

実験的に、最初と最後を童歌っぽくして、誰かが歌っているような感じを出してみたんですが、このリズム感を整えるのが異様に難しかった……。

もう2度としません。

でも例外と短編って楽しいですね。

そのうち、また何か気分転換に投稿するかもです。

……え？ それならさっさと連載の方書けって？

そのとおりです、すいません。

※感想なんか貰えると嬉しいかもです。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5705q/>

---

衰れで歪んだ恋物語

2011年10月6日11時27分発行